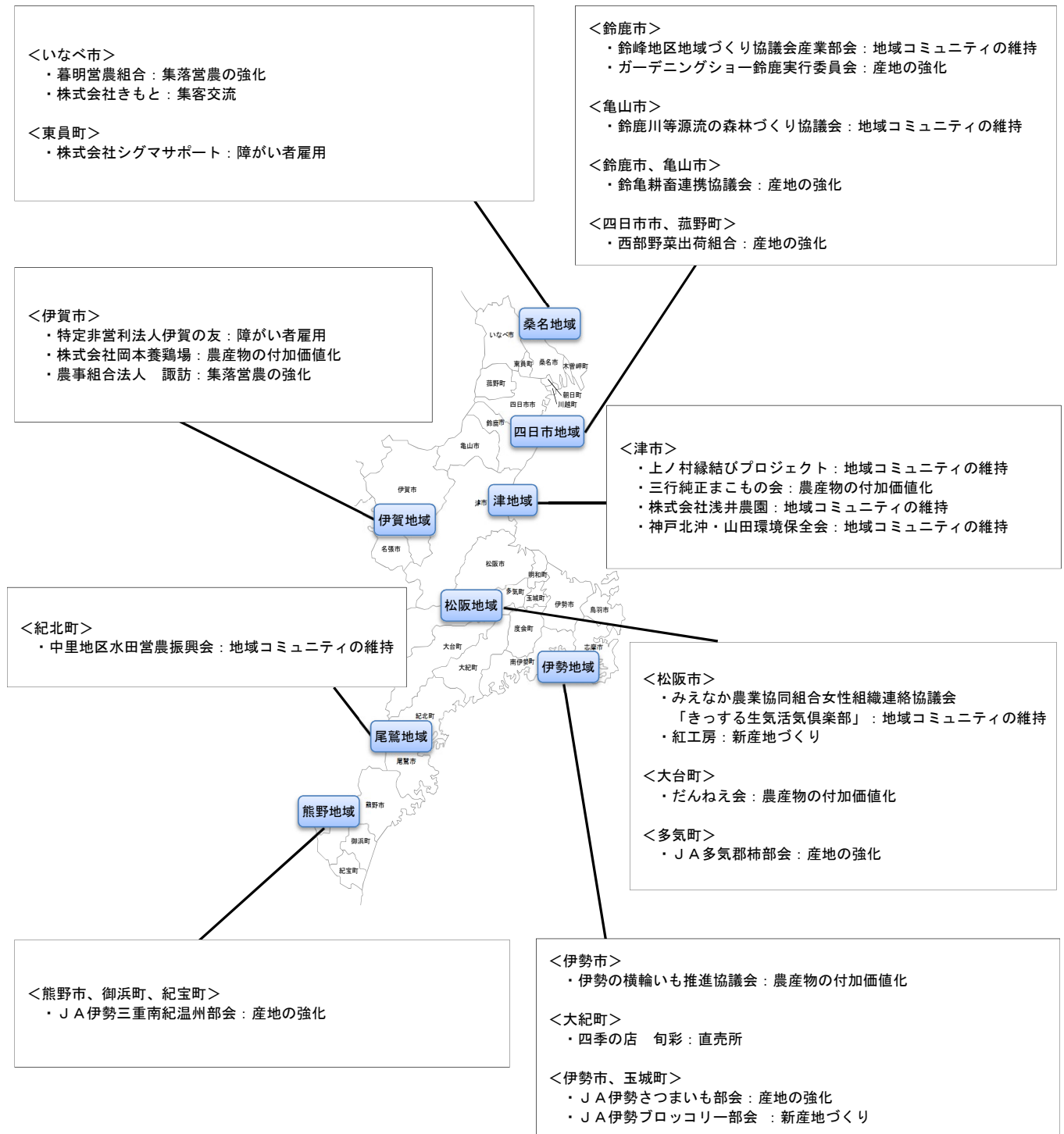


地域活性化プラン一覧（令和５年度策定）

- 1 【位置図】地域活性化プラン策定支援の状況について
- 2 地域活性化プラン一覧
- 3 地域活性化プランに関する問合せ先

【位置図】地域活性化プラン策定支援の状況について

R5 プラン策定数 25プラン



地域活性化プラン一覧（令和５年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期間
桑名	いなべ市	暮明営農組合	集落活性化へ向けた暮明営農組合の推進プラン	員弁町暮明地区は山とゴルフ場に囲まれた水田農業地帯で、昭和43年に設立された営農組合が集落営農組織として活動している。 現在は、特別栽培米の生産を行っているが収量が少なく、地域農業に対する若い人の関心が薄れ、組合自体の継続への影響が懸念される。	○若い世代に地域農業を引き継ぐため、組合の共同活動を通じて知識や情報、技術を伝達 ○生産物の収量向上及び販路拡大により、営農組合の発展と地域の活性化	若い世代の営農活動への参加促進と技術継承 主食用米単収：390kg/10a 飼料用米単収：420kg/10a 販路拡大の打合せ：1回以上/年 獣害対策の検討：1回/年	R6. 2
桑名	いなべ市	株式会社きもと	株式会社きもとによるいなべ市北勢町・藤原町での有機ＪＡＳ認証米耕作及び観光ダリア園への取組	北勢町では、高齢化や人口減少により休耕地が増えており、地域農村環境の荒廃が続くと都市部で生活している地域の方を呼び戻すことや、新しく移住する方を受け入れることが難しくなる。 また、一部の農地は獣害が多く休耕地となっているため、獣害に適した作物の栽培が必要である。	○地域の水田農業の担い手として、休耕地を利用した環境にやさしい米づくり ○獣害を回避するための作物として、観光ダリア園を整備し、いなべ市への誘客促進 ○有機ＪＡＳ認証取得	有機ＪＡＳ適合規格の水稲栽培面積：1.7ha 観光ダリア園の年間来客数：15,000人	R6. 3
桑名	東員町	株式会社シグマサポート	就労継続支援Ａ型事業所シグマファームとういんにおける農福連携と観光農園等への新たな取組	東員町では、平坦な水田地帯を利用した土地利用型農業が盛んに行われてきたが、畑地を利用する品目は一部で小規模に行われているのみで、就農者数が減少している。 当社は農福連携に取り組む障がい者就労施設として、国際水準ＧＡＰの第三者認証取得や農場ルールの定着、農場ルールの改正・提案できる人材育成に取り組んでいる。一方で、東員町の名産品と成り得る品目の選択や栽培方法、販売方法などの確立が課題である。	○新規取組品目であるぶどう等の果物や花壇苗の生産や販売の拡充・発展 ○新たな販売方法や販路先の拡大に向けた、観光農園の開設 ○6次産業化商品の開発 ○地域の農業や障がい者雇用への関心と理解促進	ぶどう栽培面積：5→10a ぶどう単収：1,200→1,500kg/10a 花壇苗栽培数量：約39,000→約50,000ポット 観光農園の開設	R5. 12
四日市	鈴鹿市	鈴峰地区地域づくり協議会産業部会	鈴峰はじめてのやさいづくり教室	鈴峰地区は、茶や花木の生産が盛んであったが、農業者の高齢化や離農により、休耕地が増加している。現状、休耕地であっても、除草等の保全管理はされており、農地は借りやすい状態にあるが、将来的に耕作放棄地が増加する可能性が高いことから、農地の有効活用を図る必要がある。	○地域住民に向けた野菜づくり教室を開催し、野菜栽培による農地の活用、地域のつながり深化 ○直売所の整備による地産地消の推進	市民農園での栽培講習会の実施：1回/月 料理教室の実施：1回/年 地元農業者のほ場見学会の実施：1回/年 新たな直売施設の整備	R5. 4

地域活性化プラン一覧（令和５年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
四日市	鈴鹿市	ガーデニング ショー鈴鹿実行 委員会	三重県の花き花木産地の認知度向上と活性化	鈴鹿地域は、数十種類の植木を生産しており、大消費地である名古屋や大阪に近く、国道や高速道路が発達している利点を活かし、市場に販売している。 サツキやツツジ、タマリユウの生産が全国1位の産地であるが、主要な樹種以外に対する市場関係者の認知度が低いことから、多樹種が揃う植木産地であることをPRし、産地のさらなる活性化を図る。	○市場関係者に向けた展示会の開催による、産地のPR ○植木の大量生産による、他産地にない新たな魅力づくり	買参人を対象とした展示会の実施：1～2回/年 来場買参人数：100名以上	R5.5
四日市	亀山市	鈴鹿川等源流の 森林づくり協議会	鈴鹿川等源流の森林づくり協議会 獣害対策支援プラン	加太地区は亀山市の西端にあり、伊賀市に隣接する中山間地域である。JR関西本線、名阪国道に沿う形で集落が形成されているが、高齢化率は44%と高く、少子高齢化が進んでいる。また、地区の農地面積は約50haで約6割が水田を占めており、兼業農家による小規模な農業経営が行われている。 近年、獣害が増加しており、営農意欲の減退や移住希望者の減少などが顕著になっていることから、将来にわたって持続的に獣害対策を展開できる体制づくりが急務となっている。	○獣害対策について地区内外の人に広く理解を促進 ○集落単位での獣害対策の実施 ○獣害対策が持続的に展開できる体制の整備 ○地区の成果や課題を周辺地域と共有	啓発冊子とポスターの作成・配布・掲示 協議会加太地区のイベントでの啓発 集落ぐるみの獣害対策の実施 移住希望者の定住：2件	R6.1
四日市	鈴鹿市 亀山市	鈴亀耕畜連携協議会	鈴亀地域における耕畜連携による飼料自給率向上、耕作放棄地拡大防止	鈴亀地区は、温暖な気候と肥沃な黒ボク土を活かして、茶栽培や水田農業が行われている。また、比較的中規模の家族経営酪農家が多く、自給飼料やエコフィード等の活用を積極的に進めている。 近年、輸入肥料や輸入飼料の価格が高騰しており、耕畜連携により、耕種経営と畜産経営が相互に支え合う仕組みづくりが必要である。	○新たな収穫調製用機械の導入によるトウモロコシサイレージ生産利用拡大 ○稲・小麦WCSの生産利用 ○飼料作物ほ場への堆肥還元面積の拡大 ○青刈りトウモロコシ収穫作業請負	青刈りトウモロコシ栽培面積：40ha以上 トウモロコシサイレージ給与量：1,400t/年以上（2戸） WCS用稲・小麦栽培面積：6ha以上 牛ふん堆肥還元量：2,300t/年（2戸）	R6.1
四日市	四日市市 菰野町	西部野菜出荷組合	西部野菜出荷組合による露地野菜（キャベツ・ハクサイ）の産地振興	四日市市県地区および菰野町の露地野菜生産者で構成される当組合では、秋冬ハクサイ、秋冬キャベツ、春キャベツを生産している。 近年、作付時期の気温が上昇傾向にあり、病害虫の多発や収穫適期の前進化により、既存の品種や栽培体系では収穫量・品質の維持が難しくなっており、産地規模の縮小が懸念される。	○気候変動に対応した栽培体系の確立 ○市場との価格交渉による単価の確保	ハクサイ平均単収：7t/10a ハクサイ2L比率：50%以上 市場との価格交渉：年2回以上	R6.2

地域活性化プラン一覧（令和5年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
津	津市	上ノ村縁結びプロジェクト	上ノ村縁結びプロジェクト　アフター・コロナ・ビジョン	上ノ村地区は津市の西部、青山高原の麓に位置する人口約250人、農地約40haの農山村地域で、農家の大半が兼業農家で営農組織もなく、後継者不足が常態化している。 そのような中、獣害対策や農地・水・環境保全対策、「上ノ村縁結びプロジェクト」などに取り組んだ結果、共同体意識が醸成された。 多面的機能を支える活動による成果は確実に上がっているものの、後継者不足や若者の地区外流出等による農業離れや生活弱者の増加への対応など課題は多く残っている。	○集落外部の知恵や活力を集落内部が持っている力と掛け合わせる活動を展開 ○定年退職後郷里である「上ノ村」に帰り、「農」を楽しめる村づくり（農的生活を楽しめる集落）	小学校区を範囲とした農村RMO（農村型地域運営組織）の下地づくり 地域連携の拡大（大村川流域） 上ノ村不動産（空き家物件情報）の展開 耕作放棄地の活用（市民農園、田んぼイベント、きくいも栽培など）	R5. 11
津	津市	三行純正まこもの会	三行純正まこもの会	河芸町は津市北部に位置し、国道23号線や中勢バイパス道路が南北に走る交通の便の良い地域である。農地の約9割を水田が占め、そのほとんどが基盤整備が終わっており、管理もほぼ適切に行われている。 一方で、平均耕作面積が小さく、水稻中心の農業経営であることから、後継者が育ちにくい状況となっている。このような中、後継者を確保するためには、収益性の高い野菜等の導入や6次産業化に取り組む必要がある。	○地域特産品として、マコモの栽培・加工・販売の拡大 ○道の駅を拠点としたマコモの販売や消費者との交流	マコモの学校給食への提供：0→300kg マコモを活用した商品開発：0→3個 マコモ収穫祭の開催：0→1回/年	R5. 12
津	津市	株式会社浅井農園	新たな担い手育成による農業生産、雇用機会の創出、高野尾地区の活性化	高野尾地区は黒ボク土で畑地が多く、花植木の産地として栄えてきたが、緑化木等の需要減などにより価格が低迷したことで、担い手の高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加が顕著化している。 地域農業の維持・発展を図るためには、後継者の育成が重要な課題となっているが、農業技術・知識の習得は経験が主体となっており、多くの年数がかかるのが現状である。このような中、短期間での技術習得手法の構築が求められている。	○早期技術習得を目的とした研修プログラムの構築 ○その成果やノウハウを活用した、担い手の育成や雇用の場の拡大	研修会の開催：0→3回/年（作の始まり、中間、作の終わり）	R6. 1
津	津市	神戸北沖・山田環境保全会	神戸北沖・山田地区の農村活性化プラン	北沖・山田地区の農地は約60haで、大部分を稲作（コシヒカリ）が占めている。近年、高齢化や離農により、農業生産は担い手へシフトしている。 平成25年に当会が設立し、多面的機能を守るための組織として営農を行っているが、水路等の老朽化が進んでおり、地域農業も担い手への負担が増え、耕作放棄地の増加が懸念される。	○従来からの環境保全活動を続けながら、地区の課題を地区で解決する体制整備 ○地区の住民との交流を深め、担い手が農業生産を持続しやすい環境整備	水路等の点検・修復作業の実施 地域内での交流事業の充実（小学生を対象とした農業体験、しめ縄づくり、コスモス畑の整備など） 担い手と農地の課題解決（地域計画の策定、農地中間管理事業の活用など）	R6. 3

地域活性化プラン一覧（令和５年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
松阪	松阪市	みえなか農業協同組合女性組織連絡協議会「きっする生氣活気倶楽部」	直売所を核とした地域農業活性化への取組み	松阪市の農業は、米、イチゴ等の施設野菜、畜産、茶などが生産されているが、高齢化や後継者不足により、規模縮小や離農が進んでいることに加え、中山間地を中心に獣害による耕作放棄地の増加が加速している。さらに、農産物価格が低迷する中、資材費が高騰し、農業経営は厳しい状況となっている。 このような中、松阪地域の農業を維持・発展させるためには、経営規模の大小にかかわらず、農業者の生産意欲を向上させる環境づくり、仕掛けづくりが必要である。	○消費者に提供できる安全・安心な地域農産物の安定的供給及び品質向上 ○ファーマーズマーケットへの参画など地産地消活動の実践による生産者の意欲向上 ○子供たちへの食育活動や農業体験による地域農業への理解度向上	会員向け研修会の開催、他地域の取組についての視察研修の実施：2回以上/年 小学校、幼稚園等への出前授業、農業体験：5回以上/年	R5. 12
松阪	松阪市	紅工房	みえの伝統野菜「松阪赤菜」を核とした地域の活性化	阿坂地区では、米や多様な露地野菜が栽培されている。中でも、「松阪赤菜」は、平成20年に「美し国三重伝統野菜」に選定され、平成30年には「松阪ブランド」に認定され、地域を代表する農産物として認められている。 一方で、近年農業者等の高齢化が進んでおり、松阪赤菜の多くの引き合いに応えるために、女性など多様な担い手の育成が課題となっている。	○松阪赤菜の栽培技術の確立による面積の維持と担い手の確保 ○松阪赤菜の販路拡大 ○松阪赤菜のPR	松阪赤菜の栽培面積：20 a 松阪赤菜の栽培人数：13名 見本市等への出展 新しいロゴマークの検討	R6. 3
松阪	大台町	だんねえ会	世代をつなぐ在来大豆「なりすけ」の復活	栗谷地区は、農地9.3ha、林地2,110ha、住民戸数56戸、農家戸数14戸で、伝統的に林業と農業で暮らす農山村である。かつては、豊かな自然資源と共生し自給自足を基本として暮らしており、その一つとして、豆腐用に大豆品種「なりすけ」が栽培されていたが、25年ほど前に栽培は途絶えた。 また、近年高齢化に伴い農地の管理が次第に難しくなり、耕作放棄地が増加しており、サル、イノシシ、シカなどの獣害も深刻な問題である。	○在来大豆「なりすけ」の栽培の復活を機に、耕作放棄農地を活用し、地域住民が協力した大豆生産 ○地域内で消費する味噌や豆腐などの加工 ○一連の自給的な山村の暮らしの豊かさを地域内外にPRし、栗谷在住の若い世代や他出者たちを含めた新しい地域づくりの展開	在来大豆「なりすけ」の栽培面積：20a 在来大豆「なりすけ」の生産量：300kg 裏作、輪作作物の選定 味噌づくりの参加者：15戸	R6. 3
松阪	多気町	J A 多気郡柿部会	省力栽培を核とした柿産地活性化への取組み	当部会は、部会員139名、栽培面積約60haで、県内市場の他、名古屋市場、大阪市場、近年ではタイへの輸出を行うなど販路拡大に取り組んでいる。 一方で、高齢化等により栽培面積の減少が急激に進んでおり、担い手の確保が急務となっている。 また、市場の動向（2L玉主体からL玉主体へ）が変化してきており、これらに対応した生産体制の整備や技術の習得、販売戦略が求められている。	○作業動線の簡素化や低樹高化による省力化、片側半樹摘果によるL玉果の安定生産 ○市場ニーズに対応した販売戦略の展開	実証ほの設置：1か所 基礎講習会の実施：1～2回/年 販売戦略の検討：1～2回/年	R6. 3

地域活性化プラン一覧（令和5年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期間
伊勢	伊勢市	伊勢の横輪いも推進協議会	「横輪いもコラボ！」で横輪町の活性化	横輪町は、自然地形や伝統家屋、田畑が織りなす山村独特の風景が広がる地域である。 当協議会では、横輪いもを一つの柱として横輪地区の活性化に向けた取組を進めており、町外の農家も加わり現在15戸が営農している。 人口減少や高齢化が進む中、地域を代表するような商品の開発、商品化に必要な生産量の確保が課題である。	○近隣地区生産者と連携した生産量の確保 ○加工品の開発による知名度向上	横輪いも販売量：5t/年 G I 登録 小学生の体験学習：2回/年（植付・収穫） 明野高校とのコラボ商品の開発：1点/年 イオン店舗での販売PR：2回/年 横輪いも推進協議会の開催：2回/年	R5. 11
伊勢	大紀町	四季の店 旬彩	みんなで楽しく、元気に！ 旬彩地域活性化プラン	阿曽地区は、歴史的・地学的な価値のある「阿曽の風穴」（鍾乳洞）、温泉、食堂、直売所のあるふれあい総合施設「阿曽湯の里」があり、地元も含め多くの人々が来訪、利用している。 農業就業人口のうち65歳以上の占める割合は80%で、担い手不足が進んでおり、さらに、山間地を中心に獣害が深刻になっており耕作放棄地が拡大している。 生産者の高齢化・減少、気候変動等の影響を受け、当直売所では商品数や取扱数量の確保が課題となっている。	○当直売所を核に、地域農産物が安定的に供給できる生産体制の構築 ○「阿曽湯の里」を核に、地域住民や利用客のアイデアを活用した、地域コミュニティ機能の向上	農産物生産・販売に関する視察研修：2回/年 イベントの開催：3回/年（春祭り、夏祭り、収穫祭） 直売所組合員の確保・育成：約200名 店員の雇用：6～8名	R6. 1
伊勢	伊勢市 玉城町	J A 伊勢さつまいも部会	高品質なサツマイモの安定生産を行う産地	伊勢市及び玉城町は、水稻の他、施設園芸、露地野菜、果樹、畜産など多様な農業経営が展開されている地域である。 サツマイモは、近年需要が拡大しており、市場からも増産が求められている。 一方で、近年の天候不順による生育の不安定化、病害虫の急激な発生への対策が必要となっている。また、防除、収穫・出荷調整等の作業が集中することから、作業の効率化・省力化が求められている。	○病害虫防除や土づくりによる安定生産 ○品種の組み合わせによる作期拡大・作業分散 ○機械化による作業の効率化・省力化 ○出荷・調製作業が容易な販売先の確保	課題を踏まえた栽培歴、防除暦の作成 作業の効率化・省力化に取り組んだ面積：5ha以上	R6. 3
伊勢	伊勢市 玉城町	J A 伊勢ブロック一部会	生産安定と価格安定、持続的な産地の形成	伊勢市及び玉城町は、水稻の他、施設園芸、露地野菜、果樹、畜産など多様な農業経営が展開されている地域である。 ブロックリーは、平成26年頃からキャベツの後作品目として導入され、面積の増加とともに産地が形成されている。 一方で、近年の天候不順による育苗の不安定化、作業の遅延、生育不良、品質低下などが顕著となっており、これらに対応した生産技術の確立が急務となっている。さらに、大規模経営体では他品目との作業分散や作業の効率化・省力化が求められている。	○病害虫防除や土づくりによる安定生産 ○播種・移植・防除・収穫作業の機械化一貫体系の確立による省力化や規模拡大	栽培説明会、現地研修会の実施：3回/年 目揃え会の実施：1回以上/年 課題を踏まえた栽培歴、防除暦の作成	R6. 3

地域活性化プラン一覧（令和５年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
伊賀	伊賀市	特定非営利法人 伊賀の友	伊賀ではじめて育てたバナナが拡 げる農福連携の輪	当法人は、就労移行支援事業所の認定を受け、 農福連携に取り組んでいる。 農業者の高齢化により耕作放棄地の発生が懸念 されることがや、農福連携の仕組みが一般には十分 知られていないのが現状である。 そのような中、生きづらさを抱える人たちが自 分らしく生活できる地域づくりの推進と、地域農 業の維持につながるよう、農福連携の取組の認知 度向上が課題である。	○バナナの栽培技術の確立、水耕サラダ菜の安定 供給 ○ＳＮＳ等を活用した施設外就労と福祉事業所の 周知 ○地域住民及び農業者との交流促進 ○農福連携推進協議会の設立に向けた働きかけ ○地域の企業とのコラボによる加工品の開発	バナナ栽培面積：6→10a バナナ収量：6.3t サラダ菜収量：936t ノウフクＪＡＳ認証取得 地域農産物を使った料理講習会等： 2回/年 加工品の開発：1品目	R5.7
伊賀	伊賀市	株式会社岡本養 鶏場	ようこそ伊賀へ～伊賀忍者たまご と農産物とのコラボ商品で賑わう 町に～	当社は、独自の飼料で雛から育成することで、 安全安心な卵の生産に力を入れている。また、地 域資源には、伊賀米コシヒカリをはじめ、アスパ ラガス、芭蕉ねぎ、イチゴ、白鳳梨、ブドウなど 多彩な農産物があふれている。 近年、高齢化と担い手不足による地域の農業者 の減少が顕著となっており、農業者の所得向上、 新たな担い手や雇用の拡大を図る必要がある。	○独自の配合飼料で育てた鶏が生んだ、滋味あふ れる卵の安定供給 ○地域の農業者等と連携して互いのブランド力を 高める加工品の開発、ＰＲ	耕畜連携による飼料用米作付面積： 1ha 伊賀市内の事業者と連携したコラボ 商品の企画：2商品 伊賀市内で開催されるマルシェ等へ の出店：2回/年	R5.8
伊賀	伊賀市	農事組合法人 諏訪	諏訪地区の自然環境と１集落１法 人を活かした新たな良質米ブラン ドの産地づくり	諏訪地区は中山間地域に位置しており、農業者 の高齢化や担い手の減少により、農地の管理が困 難となり、耕作放棄地が年々増加していた。そこ で、「集落のことは集落で守る」という思いのもと 平成27年に農事組合法人を立ち上げ、地域一体 となった農業経営に取り組んでいる。 高齢化が進み一人当たりの作業効率が低下して いる中で、農地の集積・集約化による生産性の向 上、所得向上が課題である。	○付加価値を高めた米「すわしずく」のブランド 化 ○生産工程管理による、正確なデータに基づく経 営管理 ○老朽化した機械の更新、ほ場整備と併せた機械 の大型化やスマート農業機械の導入 ○高収益作物の導入	水稻作付面積：18ha 高収益作物（白ネギ等）の試験栽培 面積：1ha	R5.9
尾鷲	紀北町	中里地区水田営 農振興会	紀北町中里地区における水田での 高収益作物生産を通じた担い手の 営農継続	中里地区は、船津川に往古川が合流する地域に 位置し、国道42号線（ＪＲ紀勢本線）と船津川に 挟まれた形で水田が広がる地域である。 また、担い手への農地集積、高収益作物の導 入・拡大を要件として、農地中間管理機構関連事 業によるパイプラインの設置を含めた圃場整備が 実施され、水田農業の収益力強化に向けた取組が 進められている。 一方で、担い手の高齢化や減少が深刻で、地域 農業の維持には、所得向上や作業の省力化が課題 である。	○高収益作物の選定と作付の検討 ○マーケティング調査結果に基づく販売方法の検 討	中里地区の作物販売額：20%以上増 加 作物生産額に占める高収益作物の割 合：5割以上 高収益作物の生産額：50%以上増加	R6.2

地域活性化プラン一覧（令和５年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定時期
熊野	熊野市 御浜町 紀宝町	J A 伊勢三重南 紀温州部会	三重南紀地域（「みえ紀南1号」 の導入・改植の推進）	当産地は、熊野市、御浜町、紀宝町の3市町からなり、耕地面積は約3,000haで、カンキツを中心とした樹園地率が約50%と高い地域である。当産地で栽培されている温州みかんは早生品種が多く、中でも極早生品種の比率が高いことが特徴である。 一方で、生産者の高齢化や担い手不足による生産量の減少に加え、獣害は依然として多く、生産者の生産意欲を減退させる要因となっている。	○産地の軸である極早生みかんの出荷量の確保 ○「味一号」の増産 ○品種を「みえ紀南1号」中心に切り替え、他産地 にない9月からの超極早生温州みかん早期出荷	みえ紀南1号の新植・改植面積： 5ha/年 苗木植え付け事業：1ha/年 客土事業：1,500 t /年	R6.3

地域活性化プランに関する問合せ先

問合せ先	電話番号
農林水産部 担い手支援課	059-224-2016

地域機関の窓口	電話番号
桑名農政事務所 農政室 地域農政課	0594-24-7421
四日市農林事務所 農政室 地域農政課	059-352-0629
津農林水産事務所 農政室 地域農政課	059-223-5102
松阪農林事務所 農政室 地域農政課	0598-50-0515
伊勢農林水産事務所 農政室 地域農政課	0596-27-5164
伊賀農林事務所 農政室 地域農政課	0595-24-8108
尾鷲農林水産事務所 農政・農村基盤室 地域農政課	0597-23-3498
熊野農林事務所 農政室 地域農政課	0597-89-6122